

麥類及びベツチ類の品種と栽培要點

水田裏作、
綠肥に有望な

飼料の青刈給飼は、わが国のように氣候が一般に湿潤で良質な乾草が得難く、その上耕地面積の少ない条件下では勢い間混作、後作、裏作を利用する飼料作物の栽培が最も得策で最近特に青刈法が急速に普及されてきたことはけだし当然のことであろう。

自給飼料の対策上特に重要な早春の青刈飼料については、本誌をもつて再三紹介しているが、重ねてその特性を記し、大方の参考に供するもので、これらを再認識し、合理的な飼料設計を樹立されることを切望する。

一 特性及び品種 (第一表品種別) (特性概要参照)

(一) 燕 麥 (カラスムギ・オート) 燕麥は短期間に旺盛な生育を期待できる点では青刈作物中随一で土地を選ばず栽培容易な作物である。早刈する時は再生し、二、三回刈ができる。暖地では越年性(関東以南)寒地及び積雪高冷地では一年性のもので草丈五尺内外となる。



エンパク岡山黒生育状況 (千葉農場)

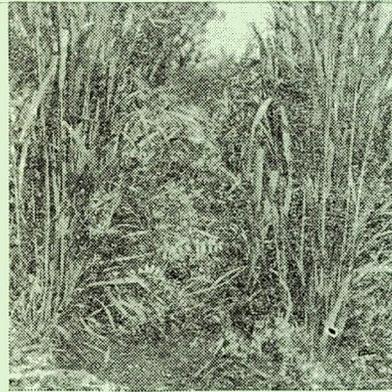
◎岡山黒 秋播性の高い品種で冬枯れが絶対なく暖地における秋播用として最適、早生種であるから再生力はややとほしい。
◎ピクトリー一号 スエーデン原産の中熟種で早播にすぎると冬枯れしやすい、草丈高く分蘖多く、稈も太く柔かて青刈用優良種。

◎前進 アメリカ原産で前者に比し、草丈やや低いが、葉幅広く再生力強く青刈用としてすこぶる多収な品種である。

◎スワロフステール スエーデンスワロフ育種研究所で育成されたものを弊社が直接取り寄せ、検定の上増殖中のもので、やや晩生種であるが、草丈高く特に倒伏のしない子実、青刈収量ともにすこぶる多い。

◎青刈燕麥雪印一〇一号 草丈やや低いが分蘖極めて多く、耐寒性の強い晩生種、秋播燕麥限界地帯で従来品種では冬枯れの生ずる地方の耐寒性品種。

(二) ライ麦 (クロムギ) 草丈高く六尺以上となり、耐寒性は麥類中最も強く、暖地寒



エンパクとコンモンベツチの混播生育状況

地を問わず秋播に適し、早春より豊富な青草が得られる。越年性または一年性で出穂期は燕麥に比し早く、また茎葉の硬化が早いので利用期間は燕麥よりせまい。しかし早播のもは年内に一番刈が行われ、再生力も強く、また不良環境に耐える力が強いので、冬作飼料作物としては一番重宝なものである。

◎ベトクイザ ライ麦の代表的な優良品種、ライ麦は他の麥類と異なつて他花授精の作物であるから、播種に注意を怠ると雑駁なものとなり易い。

◎ベトクイザ一八五 前者より耐寒性更に強く耐湿性にも富み、伸長大で多収、しかも茎葉の硬化が晚い長所をもっている。水田裏

作の栽培に適し、成育旺盛で純系優良品種。
(三) ベツチ ベツチはレンゲよりも栄養価に富み、いずれもよく分枝し六、八尺にも伸びる、他物に纏絡しつづ生長するので、支柱作物との混播がよく、麥類との混播が一層有利である。一年性または越年性の作物で種類は数種あるが、普通利用され且つ価値のあるものをつぎに示す。

◎コンモンベツチ (ザイトウイッケン) 早春の生育早く開花もヘヤリーベツチに比し、一、二週間早いのが耐寒性に乏しく、寒冷地の秋播は困難である。

◎ヘヤリーベツチ (サンドベツチ) 耐寒性強く積雪寒冷地の秋播も可能で、葦科のライ麦ともいうべき強い性質をもっている。

(四) 青刈豌豆 青刈豌豆は耐湿耐寒性の極めて強い作物で、湿田でもよく火山灰のやせた土地でも反当り八百貫ぐらゐの収量が、しかも早春に得られるので、湿田の裏作としても捨て難い作物である。品種には実取兼用の赤花豌豆、飼料緑肥専用の極めて旺盛な繁茂をするオーストリアアンウインターピース等がある。

二 栽培の要點 (第二表栽培例参照)

飼料作物の混播は多大の利益がある。即ち良質多収となり、作物相互の保護と調和を保ち単播に比し、地面の利用上有利で、且つ養分の奪合いを防ぎ、利用期間を長くする等数多くの利点をもっている。中でも麥類とベツチ類の混播の場合はベツチは麥に纏絡してよく伸長し、麥類の多収と、ベツチ類の含有蛋白質が調和して極めて価値のある青刈飼料となるので、栽培にあたっては必ずこれらの混播を特におすすめる。

第一表 早春利用の青刈飼料作物品種特性概要表

作物名	品 種 名	草丈	分蘗	葉幅	莖稈	倒伏	稚苗姿	色	出穂期	耐寒性	その他
燕 麥	山 黒	高	多	中	稍太	強	匍匐	緑	稍晩	強	耐寒性品種 冬枯れの心配 心配の少ない 配するの多 の心す
	ク ト 1	高	多	中	稍太	強	直立	緑	中	中	
麦	前 進	稍低	多	特に	太	中	直立	緑	稍早	中	冬枯れの心配 心配の少ない 配するの多 の心す
	ワ ロー フル	高	多	広	稍太	強	直立	緑	稍晩	中	
	R 6 6 2 0	稍低	極多	中	稍太	中	匍匐	緑	晩	強	耐寒性品種

作物名	品 種 名	草丈	分蘗	葉形	毛 茸	花の状態	開花期	耐寒性	耐湿性	耐病性	取量
ライ麦	ベ ト ク ザ ー	高	多	広	強剛	最も強い	直立	灰緑	早	強	多
	ト ク ー	高	多	広	強剛	最も強い	直立	灰緑	稍早	強	多
	ベ ザ ー	高	多	広	強剛	最も強い	直立	灰緑	早	強	多

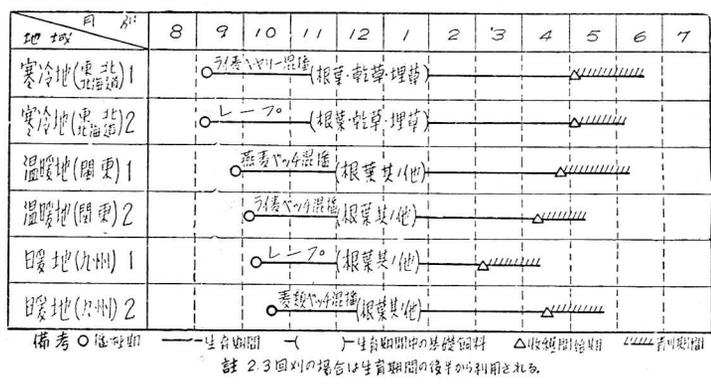
作物名	種 類 名	草丈	分枝	葉 形	毛 茸	花の状態	開花期	耐寒性	耐湿性	耐病性	取量
ベ ッ チ 類	コ ベ ハ ヲ	中	中	幅狭	少(一)	淡紫	1-2	早	小	大	中
	モ ン テ ー	高	多	幅狭	多(一)	赤紫	2-3	晩	大	大	多
	ハ ヲ ヲ	中	中	幅狭	少(一)	淡紫	1-2	早	小	大	中
	ベ ッ チ	高	多	幅狭	多(一)	赤紫	2-3	晩	大	大	多

(一) 燕 麥 施肥量は窒素分の割合を多くして茎葉の繁茂を助長するようにつとめる。播種量は反当り五升〜一斗としコンモンベッチ二升(五〜六ポンド)内外を混播する。大田出穂前後が養分、収量の最も多い時期であるが、利用上早刈して再生させる方が有利である。若刈の場合注意を要することは地際から三〜五寸を残し刈取ることである。品種別の利用についてはそれぞれの特性をつかみ、播種期を調節するなどによりなるべく長期にわたって利用するようころがける必要がある。

(二) ベ ッ チ 施肥量は窒素分の割合を多くして茎葉の繁茂を助長するようにつとめる。播種量は反当り五升〜一斗としコンモンベッチ二升(五〜六ポンド)内外を暖地ではコンモンベッチ二升(五〜六ポンド)または青刈豌豆を四〜六升の割合で混播するのが適当である。播種期は寒冷地では九月月上旬〜十月月上旬暖地では九月月上旬〜十一月月中旬にかけて随時播種できる。暖地の早播は十二月中旬に一番刈ができる。収穫は茎葉の硬化が燕麥より早いのであるべく早期に利用するようにし、緑飼料としてあまつたものは埋草、あるいは乾草として利用する。(三) ベ ッ チ ベッチは元来纏絡作物であるので、支柱作物として麦類との混播は前述の

う。今関東地方を基準として一例を挙げてみると仮に一反歩の燕麥ベッチの混播をすればは岡山黒とコンモンベッチ五畝十月上旬中旬播、前進とコンモンベッチ五畝十月下旬十一月月上旬(早播のものも冬枯れする)播種する等の方法により冬枯れの心配もなく岡山黒——前進と継続して給与ができる。

第二表 早春利用の青刈飼料作物栽培利用事例



とおりでさらによい収量をうるために反当り堆厩肥を四〇〇〜五〇〇貫過燐酸石灰五〜八貫を施用するとよい。また水田裏作として稲の立毛中に(落水後二、三日)反当り三〜五升ぐらいたばり播くが株際に播きこむとよい。またレンゲと混播してレンゲの菌核発生時の減収をカバーして安定した収量をあげることが出来る。

コンモンベッチは、産地によつて特性が異なるが、弊社が推奨しているニュージールランド産の成績もよいが、昨年初めて輸入した欧州産(英国とイタリア)産はいずれも素晴らしい成績を挙げているので、本年もその輸入をしたので大いに増産に役立つものと確信している。

(四) 青刈豌豆 耐寒、耐湿性の極めて強い越冬作物であるが、厳寒地では春播きとする。蔓性で生長も早いから、麦類との混作が有利で、冷涼な気候と軟かい砂壤土に適し、酸性土壌と連作は最も嫌うものであるから避けなければならない。生草は、やや家畜の好みに適しないという難点はあるが、いね科作物と混ぜて与えればよく好んで喰べ、また乾草やエンシレーシとすれば好食する。飼料価値も高く、早春に多量の収穫を得られるとともに青刈麦類の混播相手としても価値が高い。また湿田の裏作に恰適し、れんげの栽培可能な湿田、または耐寒性のつよい点から寒地の水田裏作として利用できる。温暖地での播種は十月下旬〜十一月月上旬、単作の場合は反当り五升前後を二尺内外の条播とし、麦類との混播では麦四〜五升、豌豆四〜五升を用いる。収穫は四月中旬〜五月中旬の早春に行われ、一般に開花期から終期までに行う。厳寒地では早春に播種し、燕麥との混播が最も有利である。収穫期は六月中下旬となり、反収は一、〇〇〇貫内外が普通である。生草は牛羊等の飼料に適し、馬はあまり好まない。青刈豌豆の単用はさけ、いね科その他の作物と混用するとよい。比較的水分が多いため、良質の乾草はでき難く、また乾燥中に葉の脱落が多いから、一度に収穫する場合はなるべくエンシレーシとした方がよい。エンシレーシとする時は水分が多いので、底部または上部に切葉を入れて水分を吸収させるか、半ば乾したものを利用するとよい。